

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

自己点検・自己評価総括表

作成者: 富樫幸信

作成日: 平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 7

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①：「学校の理念・目的・育成人材像は定められているか」について

学園統一の教育理念・目的として「早期大人化教育」・「学科の専門教育」の二つを掲げ日々学生指導に取り組んでいるところである。

一つ目の「早期大人化教育」とは、在学中の学園での教育を通して、社会の一形成者としての自覚を促し、精神的に、また、経済的に独立し得る人材として育成するということ、また、二つ目の「学科の専門教育」は、学園の実践的かつ専門的な職業教育、技術教育を通じて、将来必要となる各種資格を取得すると共に、学生の希望する分野での就職の実現を図るということである。

これら二つの教育目標を具現化するために、「トライアングル教育」と命名した学園独自の教育プログラムに基づく指導を展開している。このトライアングル教育の根底にあるのは、「自己管理力の養成」とそれを土台とした成功体験の積み重ねによる「自尊心の向上」である。

■項目④：「学校の理念等が学生・保護者等に周知されているか」について

過去、保護者への紹介・説明が入学式や保護者向け就職ガイダンス等一部の場に限られているとの現状認識により、「やや不適切」との評価意見が挙げられたことがある。

その改善策として昨年度①「保護者ガイダンス等直接弊校の理念・目的を伝えられる機会の増加」、②「HPや文書による定期的な教育システム・教育内容の紹介」、③「学生自身から保護者へとその内容が間接的に伝わるような学生指導の心掛け」を掲げ、保護者への周知に努めてきた。

これらの取り組みにより、②については1年生、2年生共に学科通信の季刊発行(年4回)を実現、③については朝礼時での教育理念の継続啓蒙の実施がなされ、保護者に対する教育理念周知への一助になったものと自負するところである。

①に関しては、マンパワー不足の観点から前年度中の理念・目的の伝達に特化したイベント開催が困難であったが、今年度は入学直後のタイミングで保護者ガイダンスを企画しているところである。

数少ない保護者向けイベントのため、今年度限りの企画となることの無いよう継続実施を心掛けたい。

学生については前年度以前と同様、理事長講演、校長講演等の各講演、またはクラス内でのミニ研修を通じ、弊校の教育理念・目的を啓蒙する機会を多数設け、その浸透が図られつつあるところである。今年度においてもこれらの啓蒙活動を継続する。

浸透が図られた一例として、将来的に介護という選択肢に疑問を感じ、退学の意向を示していた学生に対して、早期大人化という視点から介護の専門教育以外にも在学中の2年間で社会に出るためにここで学ぶべきことは多数あると解き、結果退学を思い留まった事例を紹介させていただきたい。

その他介護福祉士としての育成人材像を日本介護福祉士会の定める倫理綱領に求め、学生への周知の観点から、朝礼時において同綱領の唱和に努めている。

また、授業内でも同綱領に定める「利用者本位の自立支援が可能となる専門的サービスの提供」の実現を目指した指導を常に心掛けることとしている。このように授業を工夫することにより、今後も教育理念や育成人材像を伝える一つの場としていきたい。

学生本人及び保護者以外の関係者のうち介護施設に関しては、実習巡回やカリキュラム編成委員会等を通じて、また、地域住民に関しては、ボランティア活動等を通じて教育理念・目的の浸透に努めているところである。

なお、卒業生も輩出したことから、OB・OGから施設内、利用者またはその家族への情報発信にも期待したいところである。

自己点検・自己評価総括表

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

前回評価時に退学者の発生に伴い学納金及び預り金の精算手続きを行うこととなるが、教材、研修等の担当が区々で、精算額確定までの事務手続きに煩雑さが認められることから、「やや不適切」との意見があげられた「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目に関しては、教材、研修等それぞれの担当者が有している金額その他の情報をその都度事務担当者に上げる仕組みに改め、早期の情報一元化を図る。そして、一元化の後にはネットワークに情報を集約し、各担当者が必要とする情報を適宜活用できる形に改めるとしたところであるが、現状、情報の一元化を図っている最中であり、その後のネットワークへの情報集約および情報の有効活用までには至っていない。

今年度引き続き情報の一元化を図ると共にその後の情報集約の足掛かりを得たいと考えている。

なお、今回の評価に当たっては、中途退学者が生じなかったことから、上記の事務手続きの煩雑さを経験しなかったことによる消極的な理由から「ほぼ適切」の評価に至ったとのことである。

「ほぼ適切」との回答ではあったが、「③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」の項目に関し、「意思決定を要する全ての事項について明文化されているわけではないのでは。一部業務については意思決定者(部署)が不明瞭なため何処に判断を求めれば良いか苦慮するケースがある。」との意見が挙げられた。

具体的な項目が生じた際に、意思決定者(部署)を定め、明文化することにより解消を図ることとする。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①②③:運営方針・事業計画・規則等の策定について

昨年度以前と同様、学園の運営方針は学校長会議等を通じて適宜見直しと提言を図り、最終的には理事会での決議に基づきその策定がなされている。また、事業計画は毎年度教職員自らが策定し、その遂行に努めているところである。その遂行状況に関しては、毎月全体朝礼にて部署ごとの報告がなされ、全教職員への周知を図っている。

■項目④:人事、給与に関する規程等の整備について

人事、給与に関する規定は上述の学園諸規則の中に「就業規則」、「給与規定」、「退職金規定」等として定め、教職員がネットワーク上にて必要に応じて自由に閲覧できる状態となっている。

■項目⑦:教育活動等に関する情報公開について

学校の特色、学科の教育目標、合格実績、卒業後の進路、教育活動や教育環境等、教育活動全般を中心に、学生への生活支援の状況、納付金・就学支援の状況等、広範にわたって過不足なく学校のホームページ上に公開されている。

加えて、学校説明会や体験入学会の実施状況、開催予定等をツイッターやLINEなどのSNSを活用し情報提供を行っているところである。

ただ、導入当初に比べるとSNSの更新頻度が落ちているため、注意が必要であるとの意見があった。それでは広報効果も上がらず、場合によっては逆効果となることもあり得ることから、教職員が意識して更新するよう改めることとする。

自己点検・自己評価総括表

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

自己点検・自己評価総括表

②今後の改善方策

前回評価において「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」、「⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」の項目で一部「やや不適切」との評価意見があった。

その改善のために⑦については、「上長による授業評価」及び「教職員相互の授業聴講」をそれぞれ年間1回実施し、その評価・聴講結果を「スタッフ間ミーティング」において検証する仕組みを構築するとして、前年度における取組みを志向したが、「上長による授業評価」とそれを受けての評価面談までに留まってしまった。「教職員相互の授業聴講」を行えるまでの時間的な猶予が無かったことが主な原因である。そこで、今年度においては、授業進行上支障が生ぜず、かつ、有効な評価が担保される範囲内において、コマ単位での聴講に固執せず時間に囚われない聴講を取り入れ、職員間の授業聴講とその結果に基づくスタッフ間ミーティングを実現させる予定である。

また、併せて「自己評価」、「学生評価」への取組みをも志向したが、前年度総括においても触れたように、職員会議等で議論したところ、「自己評価」及び「学生評価」への取組みに当たっては、評価方法、評価結果の妥当性、評価実施による講義力向上の担保といった点で不安が残るところがあるとの見地から、当面の間実施についてはペンディングとし、引き続き議論は重ねるものとする。

一方⑨については、前年度総括にあるように学則を改定し、前年度より実習等の試験未実施科目については、実習先による実習成果に基づく評価等科目の実態に応じた評価を行うよう改めた。

③特記事項

■項目②③：教育到達レベル・学習時間の確保・カリキュラム編成について

前回評価において、学園の教育目標の一つである「学科の専門教育」の達成目標レベルを『目指せ！3つのH（Hand《技術》、Head《知識》、Hart《価値・倫理》）を学生指導の指針とすることとした。前年度、この指針にしたがい、カリキュラム編成を再検討し、独自科目として「基礎演習」を新たに導入し、国の定める時間以上に学習時間を確保した結果、国家試験合格レベルにまで到達させることができた。

■項目④⑤：キャリア教育・実践的な職業教育・業界との連携・実習について

従来より、学園独自の内定後教育（PCP教育）を実施しており、就職先から高い評価を得ているが、在学中の学生はその重要性についてまだ十分に理解できていないように感ずる。今後は、1年次の実習前にビジネスマナーの重要性を理解させることが課題であると認識しているが、現状は授業のコマとして確保することは困難であるため、ホームルーム等の時間を有効活用し、1年次実習時までにある程度のビジネスマナーを身につけさせたうえで実習先へ送り出すこととする。

また、学生の意識向上と業界との連携強化を図るため、昨年度同様、業界から講師を招き授業を実施した。ただ、現状は年に1回のみの実施に留まるため、今後は複数回の開催が可能となるよう、さらにカリキュラムの改善を図るものとする。

■その他：教職員の資質向上・能力開発について

新人教員については「介護教員講習会」への参加により、また、年度初めは福祉施設に伺い、現状把握のための研修を行うことにより、知識・技能の向上を図っている。

さらに、昨年度より新人教員を中心として授業内容・技術の質的向上及び組織人としての資質向上のため、教員研修の回数を増やした。これらの教員研修は、今後も継続して行う予定である。

■その他：国家試験対策の強化について

今年度卒業生より、全員が介護福祉士国家試験を受験することとなる。授業カリキュラムは必然的にタイトになるが、全員合格に向けた指導体制の強化とカリキュラム改善に努めていく。

自己点検・自己評価総括表

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	5	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

この卒業生の社会的活躍及び評価の把握に関しは、これまで卒業後における卒業生との接触機会が実習時における巡回程度とごく限られたアプローチに限られ、結果、一部卒業生の状況のみの把握に留まっていることへの指摘である。

②今後の改善方策

卒業生との接触の方法や機会に関しては、住所変更・名称変更・職場変更等も把握できるような書面で連絡を取り合う等の提案があるが、今年度以降、教育課程編成委員会にも助言をいただきながら、職員会議等にて議論を重ねていく予定である。

前回評価時に「やや不適切」と評価された「③退学率の低減が図られているか」に関しては、日々の学生指導を担うクラス担任を中心として、学生の心理的・身体的変化にいち早く気づき、早期に面談を実施することにより一定程度の改善が認められた。

また、入学当初は介護業界に対する興味関心の度合いや学校生活への期待・不安の程度が学生によって異なるが、教職員から学校生活における楽しみや学習目標などを丁寧に伝えることにより、自発的にやる気を起こさせることができた。

これらを継続し、さらに学生と担任の二者のみでなく、保護者や責任者も交えた面談を実施することにより、今年度以降も退学防止に努めるものとする。

③特記事項

■項目①：「就職率の向上が図られているか」について

平成27年度に続き、平成28年度も就職率100%を達成できた。

担任や就職サポート室担当者を中心として、学生の性格・特質に合わせた細やかな指導を行い十分な就職対策を実施した結果であると自負している。

■項目⑤：「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」について

卒業後1年を経過したばかりであり、卒業生全員のキャリア形成への効果は把握できていないのが実情である。

今年度以降、卒業生の活躍の状況を把握し、タイムリーに在校生へ情報発信することにより、教育内容へ反映させる予定である。

自己点検・自己評価総括表

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	6	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	0	6	1	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	2	1	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑧卒業生への支援体制はあるか」、「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

「⑧卒業生への支援体制はあるか」については、現在卒業生を対象とした卒業後教育が体系化されておらず、卒業生本人の主体性に任せている状況であることに対する指摘である。

また、「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」については、高校内での説明会の際に、将来を見据えた進路決定に必要な業界の情報伝達が不十分であることに対する指摘である。

自己点検・自己評価総括表

②今後の改善方策

卒業生に対しては、卒業後のサポートの間口を広げ、新たな資格取得に関する相談だけでなく将来的には再就職支援も視野に入れたサポート体制を検討する。卒業生への支援を充実させるにはまず、卒業生の状況を把握する必要があるため、同窓生通信等により情報交換・情報共有を図ることを検討中である。

高校等との連携については、現在実施している高校内説明会における説明内容をさらに充実させるため、ブラッシュアップを行う。

また、現在でも高校福祉科の入浴体験授業を本校の入浴実習室にて実施するなどの連携は図られているため、将来的には福祉科に限定せず、あらゆる学科の高校生を対象とし、介護福祉業界の現状と日本の将来などの社会問題を考える場としての意味合いも含め、演習形式の公開講座の開催を検討する。

③特記事項

■項目①：進路・就職に関する支援体制の整備について

就職サポート室と担任・部署責任者が連携し、学生への求人情報提供や筆記・面接・論文を想定した就職試験対策を実施している。

また、学生向け及び保護者向けの就職ガイダンスを開催し、就職活動関連情報や具体的な活動の流れなどを説明している。

■項目②：学生相談に関する体制の整備について

近年、学校生活・人間関係・家庭事情等々、多少なりとも不安を抱えている学生が増加していることは事実である。そうした精神的負担等が要因となって、学習意欲・登校意欲が低下してしまわないよう、担任が中心となり定期的な個別面談を実施している。

全学生対象の定期面談を実施したのち、必要に応じ、個別面談や責任者による面談を実施するなど、学生相談に応じる体制が整備されている。

■項目⑤：課外活動に対する支援体制の整備について

ボランティア活動や部活動、研修旅行やスポーツフェスティバル(体育祭)など、各種の課外活動を行っている。その際の学生への情報提供や活動場所の確保・練習中の指導など、支援体制は整備されている。

■項目⑦：保護者との適切な連携について

入学当初から、学校と家庭が協力して学生の教育を行うという指針を保護者に伝達しており、遅刻・欠席・生活態度等に問題が見られる場合には、早急に保護者へ連絡するなどの連携がとられている。

また、成績表送付、保護者ガイダンス、学年通信の発行により、学生の様子を保護者に伝える機会を設けている。

自己点検・自己評価総括表

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	6	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

なお、普通教室・実習室・職員室その他の学内施設・設備については、開校以来iPad、パソコン等の教育用備品を含め、学生数に応じ過不足が生じないよう完備しているところである。

その他前回評価時より、実践的な防災訓練の実施が必要であるとの認識はあったが、実現するに至らなかったことが課題である。

②今後の改善方策

昨年度、改善事項として掲げながら未実現となっていた教室における窓ガラスへの飛散防止フィルム貼付についてだが、専門の業者に依頼して診断してもらったところ、校舎の経過年数も浅く、実際に窓ガラスに使用されているガラスの材質からみても飛散防止フィルム貼付を要する程ではないだろうとの回答を得たところである。今後は一定年数経過ごとに診断を行い、貼付が必要との判断が下された際に対応を図るものとする。

昨年度新たな取り組み事項として掲げた防災訓練の実施であるが、何度か交渉を試みたものの避難場所となる小学校利用の理解が得られず、実施を断念したところである。今年度、まずは小学校に変わる避難場所の確保に努め、それに目途が付き次第、実施を実現したいと考えている。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①: 施設/設備の整備について

開校以来全学生にiPadを提供し、それを活用した授業に取り組んでおり、校舎全館で無線LANを使用できる環境を整えている。それによりテキスト、問題集その他配布物の一部については、ネットワークより一斉配信の形を取り、ペーパーレス化を推し進めている。また、学習用資料をネットにて即時検索することが可能であることから、学習効率の向上に寄与している。

社会人や大学生向けの講座(座学)については、専用教室を設け個別のブースにてビデオ・オン・デマンド形式での受講が提供されており、一定の定着が伺えるところである。

■項目②: 学内外の実習施設、インターンシップ等の教育体制の整備について

現在、2年間で3回の介護施設実習を実施している。さらに学外実習施設との新規契約を増やし対応しているところである。

他の教育機関との差異化を図るためにも、国際福祉機器展への参加など学外研修の機会を設けることを検討する。

■項目③: 防災に対する体制の整備について

現在、消防計画、防災計画は立てられているが、実際の訓練が行われていない状況である。上述の通り、地域との連携を図り、実践的な避難訓練を実現できるよう検討していく。

自己点検・自己評価総括表

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	0	1	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「①学生募集活動は、適正に行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

これは、弊社教職員と高校の進路担当の先生方との接触機会が殆どないことから、弊校の教育成果を正確に伝えるためにも多少は接触の機会を設けた方が好ましいのではないだろうかといった認識から「やや不適切」の評価に至ったとのことである。

②今後の改善方策

①については、企画広報室の協力を仰ぎながら、対象エリアの高校訪問に可能な範囲で弊社教職員が同行すると共に、全ての高校に教育成果等に関する情報を提供できる環境を整えるものとする。

③特記事項

■項目①②: 適正な学生募集活動、正確な教育成果の伝達について
 学生募集に関しては、行政の指導に従い適切な対応を心掛けている。
 そのための案内書を毎年度早期に作成し、弊校を志願する生徒・保護者に対し、募集要項をはじめ、説明会や体験入学会などのイベント情報、入学者選抜(一般・推薦・AO・高卒者特別入学)に関する事項その他志願者が必要とする情報を漏れなく提供しているところである。

■項目③: 学納金の妥当性について

上記対象エリアの高校への教育成果の伝達を除いては、学納金の妥当性と併せ問題のない範囲内と自負している。

自己点検・自己評価総括表

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。「④財務情報公開」は継続して実施する。

②今後の改善方策

財務情報の公開も整備され、財務状態については現状問題がないと認識している。

③特記事項

■項目①②:財務基盤の安定性、予算・収支計画の有効性・妥当性について

毎年度、事業計画を反映した資金収支予算・消費収支予算が組まれており、理事会・評議員会等での必要な手続きを経て予算が承認されている。

■項目③④:適切な会計監査、財務情報公開の体制整備について

会計処理は学校法人会計基準に準拠した処理が行われ財務計算に関する書類を適正に作成し、他の学校情報と共に学園ホームページ上に公開しており、いつでも閲覧できる状況になっている。その財務内容は長期にわたり収支の均衡がとれ、財務の健全性が維持されているものと判断している。

自己点検・自己評価総括表

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

個人情報保護に関しては、対策がとられ体制も整備されているが、教職員の意識に差異が見受けられるため、常に意識向上を図る必要がある。

②今後の改善方策

全教職員が、個人情報保護の必要性・重要性を常に意識し、個人情報保護法に基づく学内の個人情報保護規則を遵守する。

なお、昨年度は教職員研修として、個人情報保護・情報セキュリティに関連した研修も取り入れたところである。今年度以降もこれらの研修を継続実施し、職員の意識向上を図ることとする。

③特記事項

■項目③④: 自己評価の実施と問題点の改善、自己評価結果の公開について

学園を挙げて関係諸法令の遵守に努めている。

自己評価の実施とその公開も行われおり、また問題点の把握・情報共有と改善を図るための会議を実施しているため、現状この点に関する問題はないと認識している。

自己評価の実施と問題点の改善については、以下の流れにより毎年第三者への公開をしているところである。

- ①毎年度末に所属の教職員全員が個々に自己評価を実施
- ②評価結果として揚げられた問題点とその改善策に関するスタッフミーティングを行い当該年度を総括する
- ③翌年度当初に総括と併せ自己評価結果を学園ホームページを通じて公開

自己点検・自己評価総括表

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	1	1	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

①の学校施設を活用した社会貢献等については、開校以来社会貢献活動の一環として地元NPO法人主催のイベント開催時に校舎の一部を休憩所や物品販売場として提供しているが、イベント規模や社会貢献性の観点から提供範囲を拡大してはどうかと問題提起されたものである。

②今後の改善方策

①については、昨年度同様、物品販売場としての利用を前提に規模拡大を図ろうとすると、当然のことながら現金授受の頻度が高まることから、現金事故へのリスクヘッジをどのように謀るかを詰めた上での対応とせざるを得ないとする。

以前より改善方策として静岡県職業教育振興会の募集する公開講座へ企画提案を行っているところである。今年度も引き続き提案し、開講に繋げたい。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①: 施設を利用した社会貢献等について

学生支援の一方策として、また、地域に根ざした社会活動の一環として、昨年度初めて地元沼津の祭典「よさこい東海道」に沼津2校の学生、教職員約30名が参加した。ほぼ全員が初めてよさこいを踊る状況ではあったが、地元自治会の協力のもと、振り付け等の指導を仰ぎ当日を迎えることができた。当該イベントの参加を通じ、学生の盛り上げと地域との密着を図ることができたと感じている。今年度においても学生への参加を呼び掛け、祭典参加を実現したいところである。

■項目②: ボランティア活動の奨励・支援について

昨年度同様、学内他校との協力により、ボランティア活動の場を広げ、全ての学生が支障なく参加できる体制作りを進めていく。

加えて学内施設の利用・提供によりイベントを企画運営することにより、弊社発の社会貢献、地域貢献を心掛ける。

■項目③: 公開講座・教育訓練について

学内施設と教育ノウハウを活用し、社会人に対して介護福祉士や介護職員初任者研修に関する講座を開講している。専門課程の授業が行われない週末等を利用した「附帯教育」として実施し、資格取得や就職転職を目指す方々をサポートしている。

前述の通り、今年度は取り分け実務者研修の開講に尽力していく予定である。

人間学を学ぶ場としての公開講座(人間学読書会)の開催や公共職業訓練の受託、地元商店街や自治会との連携による学生のボランティア活動の奨励、介護施設開催の運動会等のレクリエーションイベントへの参加などの取り組みも行っているところである。